

お題「氷」

テーマ「日記」

メモはどいだ

きなこもち (妻木町)

日記というには大げさかもしれないが、時折「これは」という出来事や発見があると、手紙にメモしておく。色んな事を忘れてしまっても、ふと見返すメモが、過去への扉を開けてくれるから。日記は大切な事を思い出させてくれる「鍵」なのだ。無くしたり、誰かの手に渡ったら困る点も同じだ：などと考えながら、さてあのメモはどこだ？と部屋中をひっくり返して探す今日この頃。誰かに見られてなければいいけれど。

用心

はづき (泉町)

私は日記を書かないと心に決めています。不慮の事故などで帰らぬ人となってしまったとき、家族が日記を処分する前に私を偲んで読んでくれたらどうしよう、恥ずかしすぎる！と思うからです。まだ若かった〇年前、毎夜毎夜書き続けた青春まっしぐらの日記を1冊まとめて読み返したときの恥ずかしさといつたら。今でも、恐らく夜の異様なテンションに抗えず、私はおかしな日記を書いてしまうことでしょう。ならば書かないのが一番。

父の日記

ガリガリ君 (市外)

何も知らないから何でも知っているような気持ちになつていた子どもの頃、父親の日記が目にと留まった。興味本位で覗いてみると、父は自分の思いとすれ違う私の行動を、注意しようか信じて見守ろうかと悩む気持ちがつづっていた。手紙は言葉が多くなりすぎる。日記は人が読むことを前提にしていないから、自分の気持ちに直接表出される。あれから父が日記を続けたかどうかは知りませんが、今でもあの日記を思い出します。

こぼれ話

あけましておめでとうございます。今年の干支は巳みへび。蛇に関する故事やことわざの中に、余計なものという意味で使う「蛇足」という言葉があります。広報の編集では、余計な表現がないかを常に意識しますが、ときに蛇足と思われる表現が文章を生き生きとさせることがあります。この一文字を削ったら、ここに「、」を入れたら：と記事に向き合います。

今年も皆さんに親しんでもらえる広報ときを目指します。よろしくお願ひします。(広報)

氷上の舞いは努力の金メダル
雪ふれば私の足が氷生む
薄氷を踏みつ石橋叩いたり
クリーンエネ背筋の氷る発電所
我が人生氷河時代を越えて春
氷張る明けのしじまと缶コーヒー

小阪千枝子
こねこ
光ちゃん
木偶
一慧
ストレッチマン

2月1日号の投稿募集

お便りテーマは「私が鬼になる時」です。〇〇の鬼、鬼の形相など、鬼に関する皆さんのお便りを200字以内(タイトル別)でお寄せください。

川柳のお題は「目覚め」です。(1人一句)

締め切りは1月18日(金)です。

■応募・問い合わせ

住所・氏名またはペンネームを明記し、秘書広報課広報広聴係へ。

〒509-5192(住所不要)

☎541111(内線185) / ☎557763

✉koho@city.toki.lg.jp

※応募多数の場合は、採用されない場合があります。また、お便りについては、採用に当たり、趣旨を変えない程度で表現を変更する場合がありますので、ご了承ください。掲載の際に投稿者へのご連絡は行っていません。